

# 弘前

第467号

2018

6



われらとして  
花まるり子の花  
わがさ日のこころの花

集 特



旧西目屋小学校の校舎がブナコの工場として稼働してから4月25日で1周年を迎えたということ、最近とみにおしゃれさを増している「ブナコ」を取材させていたきたいど、「BUNACO 西目屋工場」へお邪魔しました。迎えてくださったのは、秋田谷恵さん。工場の案内と、ブナコについてお話をうかがいました。ブナは白神山地で知られるように青森県が日本一蓄積量が多い木材です。工場に入って直ぐの掲示板の下にはブナの原木が置かれ、ブナについての説明と創業当時のブナコ工場の様子の写真と共にブナコに関する掲示がありました。まずは以下に引用します。

ブナ原木  
漢字で書くと「樺」。  
材質は硬くて粘りがあり、弾力性があります。  
また、曲げに強いのも特徴です。  
ブナの木材が家具材に用いられる

ようになったのは比較的最近の事で、水分を多く含む為、乾燥は難しく、乾燥が十分でないとおねじれや狂いが生じやすいので乾燥が大変重要な木です。

ブナコは昭和31（1956）年に青森県工業試験場場長の城倉可成氏と漆の職人石郷岡啓之介氏との共同研究により考案されました。はじめは漆器の素地として開発されたブナコの技術ですが、当時工業試験場に勤務していた望月好夫氏の手によってよりモダンなデザインの製品が作られるようになりました。

ブナコ発明の動機は、青森県を中心として北部日本に豊富にありながら利用の少ないブナ材の高度利用と漆器素地の改善にありました。

ブナには他の木材にはない良い所がありますので、その持ち味を活かす方法が無いものかと長年研究を進めておりました。

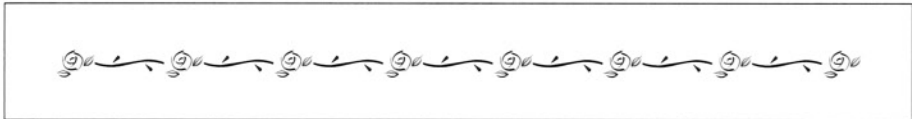


その結果木材の繊維方向を一定に定位することにより資材の反りを防止することができる事を知りました。そこで作りやすく、デザインも自由にし、従来の木材にない物を作る方法としてブナコの製造方法が生まりました。  
（ブナコ漆器製造株式会社 創業当時の映像より一部抜粋）

最初に案内されたのは元音楽室で、その音質で高い評価を得ている「Faggio」というスピーカー

の試験室。軽快なジャズを聞きながら独特なその形状について説明を受けます。スピーカーの内部で後ろに行った音が跳ね返りぶつかり合って消され、残響が出ないよう計算して設計されているのだそうです。

スピーカーの上には下がっているランプのシェードは、スピーカーと同じ形の物を使っています。展示会ではスピーカーも吊り下げ、どこから音が出ているか来場した人に不思議がられたそうです。同じ型で向きを変えただけで違う製品ができるのもシンプルだからこそ。ところで、このおしゃれなデザインは「デザイン」部門があって作られているのかと思っ



特集 ブナコ

……なんたがおもしろそうでねが……

**Denega**

スタジオ  
ギャラリー

弘前市上瓦ヶ町11-2  
☎ 32-1794